

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
1 (学術論文) Developmental Changes of Aldehyde Oxidase Activity and Protein Expression in Human Liver Cytosol	共著	平成 24 年 3 月	Drug Metabolism and Pharmacokinetics 27(5) pp.543~547 日本薬物動態学 会	Aldehyde oxidase (AO) に及ぼす成長の 影響を検討し、AO 活性は生後急速に増 加し、それらが AO タンパクの発現によ って制御されることを明らかにした。 (田山剛崇、杉原和美、佐能正剛、 <u>三宅 勝志</u> 、北村繁幸、大田茂) 担当部分：共同研究につき本人担当部分 抽出不可能。
2 (学術論文)シタグリプチ ン服薬患者の HbA1C の 推移と治療成績にえいき ょうを与える重要因子の 検討	共著	平成 24 年 10 月	病院薬学 48(10) pp.1221-1225 (2012) 日本病院薬学会	シタグリプチン服薬患者の HbA1C 値の 低下に影響を与える因子を多変量解析に より検討し、糖尿病薬の併用 EPA 製剤の 使用、年齢、中性脂肪値の順で影響を与 えることを明らかにした。 藤本綾、谷後友絵、池本章、佐々木雄啓、 木村幸司、松山彰子、斉藤茜、佐和章弘。 <u>三宅勝志</u> 担当部分：共同研究につき本人担当部分 抽出不可能。
3 Effect of Bakumondo-to on cytochrome P450 activities in rat liver microsomes	共著	平成 28 年 2 月	Journal of King Saud University Science 28(4) pp.198~202	麦門冬湯の P450 に及ぼす検討を行い CYP2C の誘導、CYP1A2 の阻害を明らかにした。 Masako Yasuhara, Yoshitaka Tayama, Takehiro Kashiwagi, Akihiro Sawa, Kenji Kihira, <u>Katsushi Miyake</u> 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出 不可能。
4 Estimation of occupational exposure to drugs during tablet cryushing	共著	平成 28 年 4 月	Fundamental Toxicological SciencesVol.3, No.4, 177-183 (2016)	錠剤粉碎時における飛散性を測定し、作業 者への暴露の危険性を明らかにした。 Shizuko Maeda, Eiko Takahashi, Yoshitaka Tayama, Shigeyuki Kitamura, Toyohisa Tsukamoto, <u>Katsushi Miyake</u> , Kazumi Shugihara 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出 不可能。
5 患者の保険薬局の選択に影 響を与える因子の抽出-患者 向けアンケートの分析結果に 基づくかかりつけ薬局へのア プローチ-	共著	平成 28 年 9 月	薬局薬学 Vol.9 No.1 96-105(2017)	患者の保険薬局の選択に影響を与える因子の 抽出し、かかりつけ薬局の志向には「食生活や 栄養の相談」、「挨拶」、「地方医療機関との連 携」が重要であることを明らかにした。 尾川雄一、大和浩之、三田将史、横山敬子、細 川暁則、松浦征也、中野昇、前田志津子、佐和 章弘、 <u>三宅勝志</u> 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出 不可能。